

News^{にゅーす}あらがると

長期滞在者同士の交流会 ニセコサマーステイウエルカムパーティー

夏の倶知安には毎年多くの観光客が訪れています。観光客の多くは、道外から避暑のため来ている日本人で、本州の夏の暑い期間を倶知安周辺で過ごす「ロングステイゲスト」です。

8月2日（火）、ロングステイゲストのためのイベント「ニセコサマーステイウエルカムパーティー」がホテルニセコアルペン内レストランにて開催されました。このパーティーは、倶知安観光協会主催のイベントで毎年開催されており、今年は150名の参加者がランチバイキングや様々な催しを楽しみました。会場内に設置された各ブースでは、倶知安町、余市町、真狩村、岩内町のほか後志管内の事業所数カ所がそれぞれ特産品などを用意してゲストを迎えました。倶知安ワインで乾杯した後、各ブースの出展者がゲストのテーブルに向き、地元の祭りやイベントのPRをしていました。パーティーの最後には子どもを対象にしたじゃんけん大会や抽選会が行われ、参加者は、景品として倶知安の特産品などを持ち帰り、パーティーは大盛況で幕を閉じました。



▲親睦を深めるゲストたちの様子（上）
会場内市町村ブースの様子（下）

今まで数回倶知安を訪れているという兵庫県から来ていた夫婦は、「避暑のため来ました。こちらは食べ物が美味しいので毎年楽しみにしています。特に野菜が美味しいですね」と笑顔で話してくれました。

ロングステイゲストの多くは毎年夏を倶知安周辺で過ごすリピーターです。ゲスト同士が宿泊先やパーティーなどのイベントで何度も顔を合わせる中で、仲良くなり、次は一緒に倶知安を訪れるというケースもあるようです。過ごしやすい気候に加えて食べ物美味しいことも「また来たい町」の要因のひとつであることを実感しました。

駅前公園に「太鼓のロクさん」ブロンズ像が完成！

倶知安町指定無形民俗文化財「羊蹄太鼓」モニュメント「太鼓のロクさん」のブロンズ像が倶知安駅前公園に完成し、8月6日（土）晴天の下、除幕式が行われました。

「太鼓のロクさん」こと高田緑郎さんが創作した「羊蹄太鼓（昭和38年創作）」は将来にわたって継承・保存・普及を図るものとして、倶知安町無形民俗文化財に指定されています。羊蹄太鼓は、ロクさんをはじめ「くつつちゃん羊蹄太鼓保存会（平成3年設立）」が中心となり、倶知安の郷土芸能として羊蹄山のように勇壮に、そして力強く、世界に響く和太鼓となつていきます。この町に住んでいる人なら誰もが一度は和太鼓の音色を、また太鼓のロクさんの名を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

ロクさんはどんな人にも分け隔てなく接し、どんなときも感謝の心を忘れない人でした。そして人を楽しませることを一番に考えて和太鼓と向き合い、和太鼓を通して人の温かさやふるさとを想う心を多くの人たちに伝え続けてきました。誰からも愛されたロクさんは平成22年2月21日、94歳で逝去されました。

それから数年が経ち、ロクさんの存在やロクさんから教わったことを過去のものにしないで広く末永く伝えていきたい、また、現在多くの人に親しまれているこの町の郷土芸能を作り伝えたロクさんを顕彰したいというくつつちゃん羊蹄太

鼓保存会のメンバーの強い思いがあり、ブロンズ像を制作することを決めました。制作にあたっては、和太鼓に携わってきた人やロクさんに元気づけられた多くの人からたくさんのお礼が集まりました。また、町内のみならず町外や道外からも多くの協力がありました。

ブロンズ像の台座には、ニセコ連山太鼓を連想させるニセコアンヌプリの火山活動によってできた石を使用しており、そこには太鼓に親しむ子どもたちの手形が彫刻されています。これは、ロクさんがいつも握手に始まり握手に終わる、人との出会いを大切にしていたことに由来しています。

このモニュメントを通じて、ロクさんを知らない世代にもふるさとを想う心を持つてもらいたいと矢吹俊男さん（くつつちゃん羊蹄太鼓保存会）は言います。ロクさんが築いた伝統はきつとこれからも語り継がれていくことでしょう。



▲8月6日お披露目された
「太鼓のロクさん」ブロンズ像

俱知安町原子力災害避難措置計画を発行しました

俱知安町防災会議（事務局 町総務課 危機管理室）では、町・各防災関係機関・事業所・自主防災組織と町民が、お互いに協力・連携する防災体制を確立し、災害に強いまちづくりを推進するために「俱知安町地域防災計画」を策定しています。

この度、町防災会議ではこの計画に定める避難等措置計画として、町民などの防護対策を実施するにあたり、必要な事項を定めた「俱知安町原子力災害避難措置計画」を発行しました。この計画では原発事故が発生した場合の避難などにおける基本的事項や緊急事態における配備体制が定められているほか、町内会などの避難バス乗車場所や、避難先の市町村

とその避難経路について掲載しています。

また、町ではこのほかにも、防災マップなど様々な防災に関する情報をホームページで公開しています。地震や台風などの自然災害は、いつ私たちの生活に襲い掛かるのか、その発生を予測することは困難です。日頃から家庭や、職場などで避難方法を話し合ったり、非常持出品の準備をしておくなど万が一の場合に備えましょう。

町総務課危機管理室 ☎ 56-8000

町防災ホームページ

http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/Living-Information/bouhan-bousai-syobo/bousai_info/

第27回羊蹄山ろく連合消防演習が実施されました

7月26日（火）町中央公園において、羊蹄山ろく消防組合消防本部をはじめ羊蹄山ろく7か町村の消防団が参加する第27回羊蹄山ろく連合消防演習が実施されました。

演習は俱知安中学校吹奏楽部の演奏による、全団員の入場行進で始まり、その後、小隊訓練や小型ポンプ操作などにより各消防団の日頃の訓練の成果が披露されました。

演習の最後には、町文化福祉センターでの建物火災を想定した火災救助訓練が行われました。

この訓練では、参加した消防団員や消



▲建物火災を想定した火災救助訓練での放水の様子

防職員が連携し、はしごやクレーンを使用した人命救助や放水による消火活動が披露され、迅速で気迫あふれる姿を見ることができました。

私たち町民も日頃から防災意識を大切にし、火災の無い町を目指しましょう。

姉妹都市スイス・サンモリッツで異文化体験！ 青少年交流事業派遣者が決定しました

7月号の広報紙などで募集をした、平成28年度姉妹都市スイス・サンモリッツとの青少年交流事業の派遣者3名が決定しましたので紹介します。

◇佐藤 舞依さん（14歳）
俱知安中学校3年生

◇村田 菜乃花さん（17歳）
俱知安高校3年生

◇青山 由季奈さん（17歳）
俱知安高校3年生

3名は9月26日～10月6日まで11日間の日程で、スイス・サンモリッツを訪問します。滞在中はホームステイをし、現地の学校や観光名所などの見学を予定しています。



▲今年度の派遣者3名、左から青山さん、佐藤さん、村田さん

この交換留学は、今年で22年目を迎え、これまで俱知安町からは今回の3名を含め計24名が留学をしています。今回の派遣者3名にとっては、外国の地で異文化を学ぶ貴重な機会となるはずです。

10月1日より 「快速じゃがりん号」 実証運行開始

現在市街地を走る「じゃがりん号」に加え、町は10月1日から来年3月31日まで「快速じゃがりん号」の実証運行を開始します。

「快速じゃがりん号」の運行ルートは2つあり、より通院・子育て・お買い物に便利なルート設定になる予定です。

なお、運行に関する詳細は9月中旬に新聞折り込みをするほか、広報紙や町ホームページを活用し、お知らせいたします。

※快速運行のため、停留所以外での降車（フリー降車）ができませんのでご注意ください

現在、運行中の「じゃがりん号」もぜひ、ご利用ください。

町総合政策課企画振興室企画統計係

☎ 56-8001

✉ kikaku@town.kutchan.lg.jp

くっちゃんまちなか循環バス



北海道新幹線倶知安駅周辺の高架化について

北海道新幹線新函館北斗～札幌間は、平成24年6月29日付けで着工が認可されていましたが、倶知安駅周辺については、掘割式（半地下）となっていたため東西の連絡経路の限定化やアクセス困難地の発生など、多くの問題が懸念されていました。

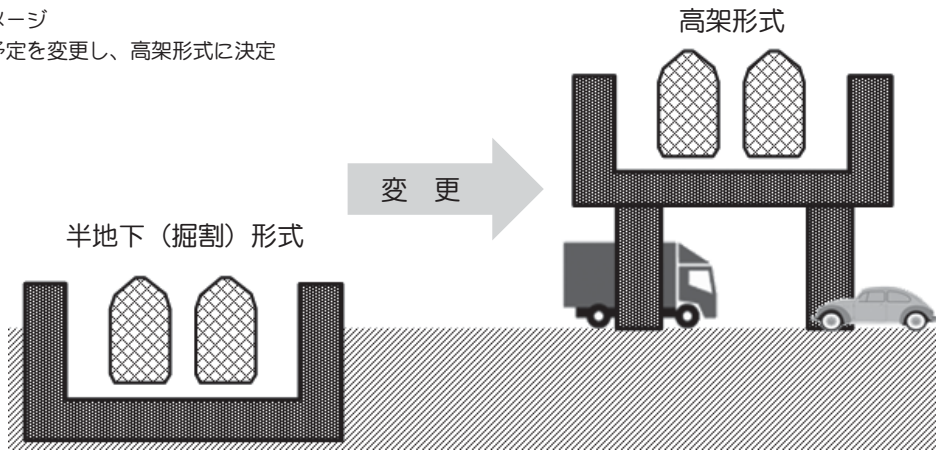
これらの問題解決に向け、事業主体である鉄道・運輸機構が、過年度より国土交通省に対し行ってきた高架化に関する変更手続きが、平成28年7月22日付で同省より認可されましたのでお知らせします。

町では、この変更を受け、新幹線まちづくり検討委員会での議論に反映させ、南一線跨線橋を含む交差道路の扱いについても関係機関と協議を進め、来るべき北海道新幹線開業に向け各種事業を進めていきます。

町長は、高架化が決定したことにより駅舎のデザインや施設構成、交通結節点としての駅前広場のあり方など各種委員会などでの議論もより具体的なものになっていくと思うが、新幹線駅や高速道路ICの完成はゴールではなく、それらを活かした町民の活動や生活が、よりよいまちづくりの起点であると考えていると話しています。

北海道新幹線駅周辺イメージ

半地下（掘割）形式の予定を変更し、高架形式に決定



町長と話してみませんか？ 毎月第4木曜日は「町長室の日」です

日頃感じている町政への意見や要望、質問、疑問などについて、町長と直接話してみませんか？

「〇〇はどうなっているの？」

「□□について聞きたい！」

「ぜひ△△をやってほしい！」

どんなテーマでも構いません。西江町長が直接話を聴きます。

「町長室の日」開催要領

- 開催目的／町政の推進および事務・事業の改善に活かすため、町長が町民から直接意見や要望などを聴く
- 開催日時／毎月第4木曜日13時～17時
- 対話の時間／一団体（個人も可）につき60分程度
- 対話内容／町政に関すること全般
- 町長のスケジュール／町長のスケジュールは「町長室の日」を最優先としています。町長の都合がつかない場合において、町長が特に必要と認めるものについては、別途申込者と日程調整を行います
- 申込／町総合政策課企画振興室広報広聴係まで申し込んでください。申込期限は、毎月第3木曜日（開催の1週間前）です

※一回の開催につき4団体まで受け付けます（先着順）

申し込みは電話または「町長室の日」

申込用紙により行ってください

☎ 56-8001

FAX 23-2044

✉ kouhou@town.kutchan.lg.jp

※申込用紙は、役場1階町民ホールまたは広報広聴係で受け取れます。町ホームページからも入手できます

※電話で申し込む場合は

①話の内容

②代表者の氏名・住所・電話番号

③参加者全員の氏名・住所

についてお聞きします

■その他／詳細については、広報広聴係へお問い合わせください

【平成27年度「町長室の日」実績】

5回（7件）開催

※本事業は平成27年度7月22日から実施しました。

町長と膝を交えて話をしてみませんか？



一流選手の指導で、育てアスリート!! スポーツ教室&ソフトボールクリニックが開催されました

元北海道日本ハムファイターズ選手
池田 剛基 スポーツ教室

7月29日(金)午前9時から、北陽小学校体育館において、元日本ハムファイターズ選手の池田剛基氏を講師に迎えたスポーツ教室が開催されました。

この事業は俱知安町体力向上先導的総合実践事業として、町教育委員会の主催で行われたもので、毎年町内の小学生が参加する「小学生ドッジボール大会」に向けて夏休みの間に「投げる」コツを学ぼう!をテーマに、当日は小学生24名が参加しました。

スポーツ教室では、ランニングや柔軟体操を行った後、各々が一つずつ野球ボールを持ち、遠投を行うなどし、講師の池田氏から、腕の振り方や肩の使い方を通して、ボールを投げるための体の使い方やコツを教わりました。



▲講師から「投げる」コツを学ぶ子ども達

最後に池田氏は、子どもたちに対し「スポーツも、勉強もどちらも大切です。どちらからも学ぶことはたくさんあるので、今日のことを忘れずに、楽しんで学校生活を送ってください」と話していました。

日本女子ソフトボールリーグ1部
太陽誘電 ソフトボールクリニック

女子ソフトボール1部リーグで活躍する太陽誘電女子ソフトボールチームが、7月31日から8月6日までの7日間、町内の「きたろくグラウンド」で夏季合宿を行いました。

同チームは当町での合宿中に、小中学生を対象にしたソフトボール教室を開催し、多くの子どもたちが参加しました。指導に当たった選手は、捕球の際の足の運び方や、グローブを出す位置、「投げる時は、その方向に体を向ける」などの基礎を、わかりやすく子どもたちにアドバイスしていました。子どもたちも、熱心にアドバイスを聞き、上手くなったときには選手と一緒に喜び、楽しみながら指導を受け、参加した小学生は「基本的なことを教えてもらえて、とても勉強になりました」と話していました。



▲選手から指導を受ける様子

一流選手から指導を受けた経験は、子どもたちにとって貴重な経験になったのではないのでしょうか。

旧東陵中学校の一部を貸し付けしています

町では平成25年3月で閉校となり、現在利活用について検討を進めている旧東陵中学校の一部(屋内体育館・食堂室・2階普通教室)を希望者に対し、貸し付けています。

貸し付けることができる対象者は、町内の非営利団体で、事前に町総務課管財係に貸付申請書を提出していただく必要があります。

貸し付け時間については原則として、町役場開庁日の9時から17時までとなります。

■お問合せ先/町総務課管財係 ☎56-8000
FAX 23-2044

貸し付け料金について

	9時～12時	13時～17時
	9時～17時	
屋内体育館	250円	250円
食堂室	250円	250円
		500円
普通教室	100円	100円
		200円

相模原市で起きた 障害者施設入所者殺傷事件について

7月26日(火)、神奈川県相模原市の知的障がい者施設において、あってはならない大変痛ましい事件が発生しました。容疑者に強い憤りを感じるとともに、亡くなられた19名の方々のご冥福をお祈りし、ご家族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。また、負傷された方々の一日も早いご回復をお祈りいたします。

障がいのある方の生きる権利を否定し、命の尊厳を顧みない、この凶行を、私たちは到底容認することはできません。

すべての障がいのある方は、障がいのない方と等しく基本的人権を有する個人として尊重されなければなりません。そのために、障がいの有無に関わらず、お互いに人格と個性を尊重することができる社会を実現することが必要です。

俱知安町民は、これからも障がいのある方一人ひとりの命の大切さを思い、差別と偏見のないまちづくりを目指し、ともに歩んでいきます。

俱知安町長 西江栄二